

文化
の家

長久手町文化の家 情報誌

NAGAKUATE Cultural Center
Informational magazine

SUMMER 2002
vol.14



CONTENTS

STRUCTURE / 施設点描	2
~実用性を備えつつ奇抜なインテリア~ 光のホール	
IMPRESSION	3
「音を通じての人とのつながり」 CHAM	
特集	4
アトリピングに芽生える芸術の芽 ~繰り広げられる講座の現状と成果~	
自主事業のみどころ(8月~10月)	8
公演 Pick Up	
OTHERS	10
News&Topics・Activities	
文化の家界限14	裏表紙

この情報誌では文化の家が行う事業や文化の家で展開されるさまざまな活動を紹介するとともに町の芸術文化情報をお知らせします。

STRUCTURE

施設点描

~実用性を備えつつ奇抜なインテリア~ 光のホール



光のホールは映像鑑賞を主目的にしたホールです。客席から前方を見ると、画面に集中できるように内装や客席の背面はすべてグレーで統一されています。一方、客席のクッションにはあざやかな黄色が使われていて、舞台から客席側を見た時には明るい空間になっています。客席のクッションは、背の部分が丸くカットされ、弓形のステッチが入っていて、ほほえましい表情をだしています。



左から 今井智景、遠藤秀安、市橋あゆみ、山根恵

IMPRESSION

「音を通じての人とのつながり」 CHAM

5月18日(土)に文化の家 風のホールでの「羽ばたきコンサート 新しい波・2002~音で遊ぶ~」演奏会終了後、お話を伺いました。

今回の企画では、作曲家としての活動だけでなく、自らがプロデュースも手がけたコンサートでいかがでしたか?

作曲は、音を作って終わりというのではなく、作品がいろいろな人に演奏されて音楽になります。今回、プロデュースを経験し、たくさんの人とかかわり、みなさんの力を得て音楽が作れるのだと感じました。今後も、「現在の自分、音を楽しんでいる自分、そして、音を通じての人とのつながり」を表現し、いつか私たちの音楽をオーケストラ編成でみなさまにお伝えしたいと思います。地元で演奏会ができたことをとてもうれしく思います。

~プロフィール~
CHAM

愛知県立芸術大学音楽学部作曲科作曲専攻第32期生4人(今井智景 遠藤秀安 市橋あゆみ 山根恵)により2001年春、結成された作曲グループ。



熱心に作品作りをする陶芸講座受講生たち



アトリビングに芽生える芸術の芽

～ 繰り広げられる講座の現状と成果～

文化の家では、主要事業のひとつとして、アトリビング講座を開講しています。創造スタッフらを講師として多彩に展開する講座の現状と成果を紹介します。

文化に触れ楽しむためのきっかけ

音楽室、美術室、食文化室などアトリビング各室で行われているアトリビング講座は、地域の人が文化に触れ楽しむ機会となるようニーズに対応した多彩なプログラムを用意しています。この4月から始まった21講座は定員を超える応募があったものが多数あり、現在約430人が文化の家で受講しています。講師は、美術系2人、音楽系2人、舞踊系1人の創造スタッフと長久手町あるいは近隣に在住の専門知識を有する人たちで、それぞれのノウハウを生かしたユニークな講座を開講しています。

ユニークな講座展開

火曜日の午前中に開講している音楽入門講座では、音楽系創造スタッフの小野隆司さんが、楽譜を読む、楽器に触れる、歌をうたうなどさまざまな角度から音楽の楽しみを伝えていきます。

木曜日の昼間開講しているバイオリン講座は、大人と子どものクラスにわかれて、グループレッスンを行っています。創造スタッフで、講師の横田真規子さんは、「楽しくレッスンしています。バイオリンを初めて触ったという人も年度末の発表会ではしっかり演奏してくれるでしょう」と笑顔で話していました。

土曜日の午前中、開講している写真講座は、講義室で概論を学習し、隣接する公園で写真撮影を行い、暗室で現像作業をするという文化の家の立地条件、設備をフルに生かした講座内容となっています。受講生のひとり、「以前から写真に興味を持っていましたが、これまで習う機会がなくて、今回受講できてうれしいです。若い人から年配の人までいっしょに楽しく受講しています」と話していました。

毎週土曜日の夜に行っている戯曲セミナーは、文化の家の特徴的な講座のひとつです。劇団ジャブジャブサーキットを主宰し、日本劇作家協会東海支部支部長のはせひろいちさんが講師を務めるこの講座は、県外からも受講生が駆けつける人気の講座です。本格的に演劇を目指す人やちょっと演劇に興味のある人など受講生の層もさまざまで、受講生同士、作品を読みあいながら、文章の腕に磨きをかけています。年度末の講座発表会では、プロの役者らのサポートを受けながら受講生らが役者として出演し、小道具の制作にもかわり、自身の作品を演劇として完成させて披露します。

ホール公演に関連した講座も開講

文化の家では、定期的に行っている講座のほか、ホール公演に関連した講座を短期的に開講することがあります。ホールでの中国琵琶の公演にあわせて、食文化室で「中国茶」の講座を、源氏物語の朗読公演にあわせて、歴史背景のお話を、子ども向けの地域演劇祭のときには子ども向け工作教室と料理教室を行うなど、内容も充実しています。「勉強にもなるし、何も知らずに舞台を見るよりもいっそう楽しめます」と評判も上々です。



楽しく料理を学ぶ家庭料理の講座



講師の指導を受ける水彩講座受講生



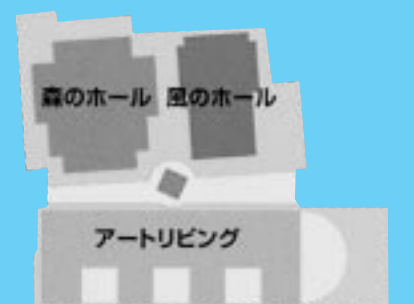
屋外での撮影を行う写真講座

ハレの空間、ケの空間

文化の家は、主にホール空間とアトリビング空間から構成されています。ホールは家の「ハレ(表向き、晴立って晴れがましいこと)」の空間であり、アトリビングは「ケ(日常、よそいきでないこと)」の空間といえます。このアトリビングは文字どおり生活の場あるいは家の居間の空間で、従来の公民館の機能、生涯学習施設の機能、地域の集会所機能等を併せ持ち、町民の暮らしの中に息づく文化を育む空間です。一方、ホールは優れた鑑賞空間として機能するだけでなく、アトリビング空間の延長上、つまりアトリビング空間における学習、練習、創造などの諸活動を発表、公開する機能を担う空間です。

(長久手町文化マスタープランより)

文化の家配置図



1年間の成果を発表会で披露

毎年、年度末には、ホールと展示室を利用した講座発表会を行っています。舞台上では、きれいにメイクをし、かわいらしい衣装を身に着けた子どもたちがクラシックバレエを披露したり、少し年配の人たちがピアノの成果を披露したりします。展示室では、絵画や陶芸、子ども美術の作品が並びます。「発表会を楽しみに練習に力が入る」「本格的な舞台上でスポットライトを浴びる緊張感がたまらない」など出演、出展した受講生からの感想がでています。また、この発表会を見たことをきっかけに新たに文化活動を始めようという人も出てきています。



発表会でのバイオリンの演奏

自発的サークルの誕生

アートリビング講座は、基本的に新しく文化活動を始める人のきっかけづくりの意味を持っています。“せっかく始めたのだから今後も続けていきたい”という1年の講座受講生たちが、今後も継続して行っていくために、みずからサークルを形成し、活動を続けていくケースが見られます。現在、絵画、ピアノ、書などの講座修了生が、それぞれの運営で活動を行い、新たなメンバーを募集し、増やしていくなどの発展を続けています(関連記事 10ページのアクティビティ)。



戯曲セミナーの発表会

自主事業と貸館の比率

年々、利用率が高くなっている文化の家では、アートリビング講座を始め、文化の家が行う自主事業と住民が施設を借りて行う活動との比率のバランスが課題のひとつとなっています。

アートリビング講座

アートリビング講座以外の自主事業

貸館での利用

ある1週間の利用例

音楽室	火	水	木	金	土	日
午前	音楽入門	リトミック	バイオリン	合唱サークル	合唱サークル	クラシックアンサンブル練習
午後	シニアピアノ	ピアノサークル			合唱サークル	
夜間	声楽練習	リトミック	多言語活動	町合唱団	吹奏楽練習	オーケストラ練習

美術室

	火	水	木	金	土	日
午前		絵画学習			水彩	油絵制作
午後	絵画レッスン	絵画	陶芸	油絵教室	子ども美術	
夜間		写真			絵画サークル	絵画サークル

舞踊室

	火	水	木	金	土	日
午前				フォークダンスサークル	クラシックバレエ	おやこ劇場
午後	社交ダンス	リトミック	社交ダンス	社交ダンス		
夜間			社交ダンス	町劇団	オーケストラ練習	オーケストラ練習

アートリビング講座受講生のみなさんに聞きました。

昨年度末の講座発表会での展示をみて、ぜひやってみたくてと思い、申込みをしました。世界でただひとつの作品が作れるなんて夢のようだとがんばっているのですが、粘土が生き物のようで、どうにもうまくまとまってくれず毎回大変ですが、楽しくやっています。(陶芸2 重坂えり子さん)

この年でいろいろなことをして自分にあったことはなにか探しているところです。陶芸は初めてで、みなさんにおもしろいよと言われ一度試しにと参加してみました。土に触れるというのは人間の原点に戻ったようで楽しくやっています。上手にできませんがね。(陶芸1 水野フジ子さん)

自分の家からこんなに近いところに楽しめる場所(文化の家)があると知り、毎回楽しみに通っています。思うように作れるまではまだまだ遠いですが、ずっと続けていければと思います。(陶芸2 加藤幸子さん)

学校へ入学したような新鮮な感じで先生のお話に耳をかたむけています。習ったことを忘れないように、授業についていきたいものです。(音楽入門 加藤陶子さん)

最近ピアノが弾けたらという思いがでてきたのですが、なかなかきっかけがなく一歩踏み出せませんでした。偶然、文化の家でシニアピアノの講座を見つけ楽しく受講しています。グループレッスンなので、友人もできてそれもいいですね。(シニアピアノ(初心者) 星野田鶴子さん)

文化の家であった「トリプル・ピアノ」の公演で3人の中年男性のすばらしい演奏を楽しみました。我が家には休眠ピアノもあるし、私もできるかと講座を受講しました。1年間のこの講座で、自信を持って自分の1曲にチャレンジしようと思っています。(シニアピアノ(初心者) 田中一宇さん)

たんに眠っている古着で、何か作れないかと思っていた折りに文化の家でリフォームの講座が開講されると知り、応募しました。作りたいものはたくさんあるのに手が動かずにおしゃべりに夢中…。それもまた楽しみに、気長にお世話になるつもりです。(リフォーム 加藤紀久子さん)

自分の新しい可能性を試すためにまったく違うことを経験しようと思いこの講座を受講しました。新しい体験が今後の生活に役立っていることを感じています。見る目の広がりができたと感じています。(暮らしのマナー 江尻吉彦さん)

カルチャーセンターに行くまでではないが、少し興味がある講座には参加するようにしています。これからもいろいろな分野の講座を開催していただければと思います。(暮らしのマナー 丹羽洋子さん)

雑巾を縫うのもおばあちゃんに頼んでいる私が服を作っています!古い着物の色や風合いが大好きで、そんな布を身に着けることができれば...と思って申し込みましたが、大正解!先生や受講生のみなさんにご親切に教えていただき、楽しい時間を過ごしています。(リフォーム 植村尚子さん)

素敵なティータイムの講座のイメージ以上に豊かなひとときを過ごしています。香りのよい紅茶、ハーブティーを楽しみ、焼き立てのお菓子を添えて、みなさんとおしゃべりしながら先生のお話を聞いています。短時間で素敵な午後のティータイムを過ごしています。(素敵なティータイム 伊藤衿子さん)

集まれ！未来の音楽スターたち

- 第2回長久手オペラ音楽コンクール開催 -

長久手町では、オペラレクチャー・コンサート、愛知県立芸術大学のオペラ公演など、オペラに力を注いでいますが、今年はその集大成ともいえる長久手オペラ音楽コンクールを開催します。このコンクールは、2000年の第1回について2回目となり、今回も海外から多数の審査員を迎え、多数の参加者を募集します。すべての審査は公開で行い、地域の人や多くの人々がオペラに接する機会とします。また、審査員による音楽公開レッスンを行うなどオペラ音楽を学ぶ人の育成にも努めます。1年後には入賞者による受賞記念コンサートを行い、受賞者たちの今後の活躍も見守っていきます。

2000年に行った第1回のコンクールでは、国内外から41人が参加し、6人が受賞しました。第1回コンクールで、第1位を受賞した呉承容さんは、その後、イタリア音楽コンクールでソシエナ大賞を受賞するなど、世界で活躍をしています。また、受賞した6人は昨年9月に行われた受賞者記念演奏会で文化の家 森のホールに集い、さらに磨きをかけた歌声を披露しました。

- 審査委員長 フォルカー・レニック
(指揮者・ドイツ)
- 審査委員 ビルギッタ・ノルドファルク
(声楽家・スウェーデン)
- 大下久見子
(声楽家・日本)
- マリア・デ・フランチェスカ・カヴァツァ
(声楽家・イタリア)
- 中村智子
(声楽家・日本)
- ルードヴィッグ・ドゥ・サン
(声楽家・ベルギー)
- ウーヴェ・ハイルマン
(声楽家・ドイツ)
- ウィリアム・オーバーホルツァー
(声楽家・アメリカ)



2000年の第1回長久手オペラ音楽コンクール

スケジュール

9月18日(水) 第1次予選	午前11時から
19日(木) 第1次予選	午前11時から
20日(金) 第2次予選	午前11時から
21日(土) 本選	午後1時から
22日(日) 表彰式、受賞者演奏会	午後1時から

入場料 7月13日から発売開始

- ・通し券(1次予選、2次予選、本選、表彰式、受賞者演奏会) 2,000円
- ・各日(一日券) 1,000円

関連事業

音楽公開レッスン

オペラ音楽コンクールに関連して、審査委員の中村智子さんによる音楽公開レッスンを行います。これは、オーディションにより受講生を決定し、受講の様子は公開されます。声楽家を目指している方、興味のある方、ぜひ参加してください。

●音楽公開レッスン

9月23日(月・祝)午後2時から
文化の家 風のホール
受講料 15,000円
※オーディションは前日に行います
(事前申込が必要)。



第1回長久手オペラ音楽コンクールのときの公開レッスン

フレンズのつどい Part 8 シャンソンの妖精 ~世界の心をうたう~

発売中

8月3日(土)午後5時30分から
森のホール
会員 1,500円、一般 2,500円、当日共通 3,000円

フレンズ会員みずからが企画、運営し、毎回大好評のフレンズのつどい。今回は、名古屋で活躍するシャンソン歌手3人で結成された「シャンソンの妖精」によるコンサートです。

日本で初めて『エディット・ピアフ賞』を授与され、フランスにもファンが多いことでも保証付きのその歌唱力で、シャンソンはもちろん、日本の歌から、カンツォーネ、タンゴ、フォルクローレなど、素晴らしい歌声を聞かせてくれます。加えて、曲ごとにドレスを着替えての、ファッション性の高い華やかな演出も、楽しみです。中部地区のシャンソン・コンサートのほとんどをプロデュースしている、加藤修慈氏のピアノに加え、名手・桑山哲也氏のアコーディオンの演奏にも期待が高まっています。特別出演で愛知淑徳大学と名城大学の社交ダンス部も参加します。フレンズ会員でない方も、ぜひ足を運んでみてください。

フレンズのつどいも第8回を迎えます。企画の理念としては「文化の家では取り上げられていないジャンル」で観客の代表でもある「自分たちが見たい作品」を取り上げようとしてスタートしました。しかし、見たい作品は多々あるもののフレンズの独立採算の中で、少しでも参加しやすい入場料で、売上げが見込める範囲での作品探しは、大変難しいものです。幸い、たくさんの人たちに助けられ、出演者の温情にもすがりながらこれまでの公演を成功させることができました。今回は「エルム」の協力を得て、シャンソンの妖精の公演を行うこととなりました。地元大学の社交ダンス部の特別参加もあり、華やかな公演となります。お楽しみに。

FROM フレンズ事業部

子ども向け人形劇 人形劇団ブーク「エルマーのぼうけん」

7月13日から発売開始

9月14日(土)
午前10時30分からと午後1時30分から
文化の家 風のホール
一般前売 2,000円、小学生以下前売 1,200円
一般当日 2,500円、小学生以下当日 1,500円

子ども向け人形劇で、昭和4年創立と日本でも屈指の歴史を誇る劇団ブークの登場です。今回、上演する作品「エルマーのぼうけん」は、1965年に初演し、全国の子どもたちが親しんでいるブークの代表作品です。今も昔も変わらない子どもたちがドキドキ、ワクワクする空想や冒険のお話です。さらに公演を楽しめるように、公演に先立って、人形作りとその動かし方を体験する「人形劇ワークショップ」を行います。

関連事業

人形劇わくわくワークショップ 8月22日(木)、23日(金)
風のホール、小学生対象



田中元偉展

GAZE AT DECAY 腐敗を見つめる

8月16日(金)~25日(日)午前10時~午後7時まで
(月曜日は休館日、最終日は午後5時まで) 展示室 入場無料

おなじみの文化の家 企画展。今回は、植物の入った約600のガラス瓶が文化の家 展示室に並びます。作者が自ら畑で作った植物や拾ってきたものなど、さまざまな素材がオイルに守られてゆっくりと腐敗していきます。1年以上前に作られたものから今回のために作られたものまで、さまざまな植物が小瓶の中で色や音の個性を發揮します。リンシードオイルと植物がつくりだす不思議の世界に足を踏み入れてみませんか。

作者の田中元偉さんにお話を聞きました。

冷蔵庫の片隅で、ものが腐っていくとき、どんな変化があるのかわからない楽しみがあります。そこには人間の力がまったく及ばない世界があります。腐ることは単に汚いことだと目を背けていませんか？今までの先入観を捨てて、気軽な気持ちで訪れてみてください。きっと何かを感じられることでしょう。

関連事業 ワークショップ

腐敗で遊ぼう!!

8月17日(土) 美術室・小学生対象

リンシードオイルに身近な植物を閉じ込めてみよう!
腐敗によって分解された植物はさまざまな色や形の変化を見せてくれます。
子どもたちといっしょに自然の小さな変化を体験します。

各事業の詳細なことやこちらに掲載した以外の事業については、公演ガイドをご覧ください。文化の家にお問い合わせください。

魂の声を震わせて アトリビング講座「ゴスペル」



全身を使って声をだす練習をする受講生たち

7月14日(日)文化の家開館4周年記念SOUL OF VOICE ゴスペル in NAGAKUTEのコンサートに参加するために開講されたアトリビング講座「ゴスペル」では、受講生たちが本番にむけて練習しています。全8回の日程で、10代から60代までの110人が風のホール舞台上で体を動かしながら楽しく大きな声を出しています。

講師の河原美由紀さんのコメント

受講生のノリがいいですね。初めは、品が良すぎて自分を出せていなかったけれど、だんだん打ち解け合ってきました。音楽は芸術、芸術は表現、表現は自由。100人いたら100通りの表現があつていいと思います。歩んできた人生がみな違うのだから、感じる心も違えば表現も違う。それが、ひとつになつていいものができると思います。一緒に歌える仲間がいるという感謝の気持ちから自然に一つの方向に向かい、ゴスペルを通して皆が元気に、人生が楽しく、幸せになれたらいいと思います。

SOUL OF VOICE ゴスペル in NAGAKUTE

7月14日(日)午後2時開演 文化の家 森のホール
歌あり、ダンスありと、ゴスペルグループ「アノインテッド・マスクワイヤー」を始めとして、さまざまなジャンルのアーティストが集結します。ぜひ、ご来場ください。



アノインテッド・マスクワイヤーのメンバーたち

優雅な音色 ガレリアコンサート

6月1日(土)文化の家では、北ガレリアで、ガレリアコンサートを行いました。ガレリアコンサートは、だれでも気楽に音楽に楽しめるようにと開始したオープンスペースでのミニコンサートで、3回目を迎えた今回は公募で決定した出演者、長久手フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる弦楽四重奏でした。クラシックから演歌、アニメソングまでお馴染みの曲の美しい音色がガレリアいっぱい響き渡りました。

親子連れの観客も多く、「子育て中で演奏会に出かけることがありませんでしたが、近くで生の演奏を聴けて嬉しかったです」といった声がありました。地域で活躍しているアーティストが主体となって、盛り上げたガレリアコンサート、次回は9月に行います。お楽しみに。



Information

平成14年度文化の家 運営委員会、企画委員会の委員とフレンズの役員は下記のとおりです。(敬称略)

運営委員会委員

小川辰男(全国地域映像団体協議会会長)、酒井都子(長久手町地域婦人会会長)、加藤正時(長久手町文化協会会長)、清水裕之(名古屋大学大学院環境学研究所都市研究学教授)、水野美々子(文化の家フレンズ会長)、半田暢彦(愛知県立大学情報科学部学部長)、川本勝(あいち尾東農業協同組合長久手地域総括理事)

企画委員会委員

安藤隆之(中京大学文化科学研究所教授)、岩田猛(ニューセンチュリーコーラスNagakute団長)、梅田小夜(文化の家フレンズ役員)、大河原良(座 NAGAKUTE団員、長久手町文化協会理事)、大下久見子(愛知県立芸術大学音楽学部教授)、小栗宏次(愛知県立大学情報科学部教授)、水津功(愛知県立芸術大学美術学部講師)、広中省子(鑑賞団体役員)

フレンズ役員

会長 水野美々子
副会長 梅田小夜、福岡八重子
会計 青山つた系、山口節子
鈴木多恵子、瀬川典子
監査 鈴木禮子、福岡弘恵

アクティビティ

楽しく書を学ぶ みどり書楽会

文化の家が開館してまもないころのアトリビング講座受講生たちが主体となって書道を練習しているグループです。当時の受講生だけでなく、その後入会した人も含めて18人ほどが参加しており、毛筆、硬筆など自分の好きなテーマを練習し、先生の指導を受けています。なごやかな雰囲気、メンバーのひとり「手も先口のほうが動いていることがよくあります。週に1回、こうやって筆を持つことで、日常と離れて気が紛れます。もう始めて3年ほどです。ここまで続いたのは先生の人柄とメンバー全体の雰囲気のよさでしょうね」と話していました。個人指導なので、ちょっと趣味程度に楽しく練習したい人から、本格的に学びたい人まで、各人がそれぞれの方法で練習しています。興味のある人はのぞいてみてください。

練習日 木曜日午前中
(8月以降、第1、2木曜日、第3、4金曜日に変更)

場所 文化の家 講義室2ほか

問合せ先 森君子 0561 62 9671

練習日、場所は変更になる場合があります。



このコーナーでは、文化の家を拠点に活動するグループ・サークルなどを紹介します。



編集後記



この6月は日本が、世界がサッカーのワールドカップで燃えた。スタジアムを包む歓声、絶叫を共にしながらテレビで観戦したが、熱狂するサポーターはただ声援を送るだけでなく、自らも選手と一体化してボールを追い、戦い、12番目の選手になっていることを実感した。ルールの知識や少しでもプレーの経験のある人ならなおさらのことと思う。音楽や演劇、美術の場合はワールドカップのように国家の威信にかけたり、フリーガン走らせたりするほどの熱狂を呼ぶことはめったにない。しかし、優れた公演や作品を鑑賞している時には、サポーターと同じように心を高ぶらせて演者・作者と共に歌い、演じ、また描くことをしている。その知識や経験が豊かであればあるほど深く入っていくことができる。

本号が特集する文化の家アトリビング講座はこの共同作業への深まりと、同時にだれもがアート選手になって自分の創造を楽しむことができる、この二つを合わせて目指しています。

文化の家 館長 川上 實



色金山歴史公園

色金山歴史公園は文化の家の北東2.1kmのところにあります。今から約420年前、豊臣秀吉と徳川家康が対陣した「長久手の戦い」において、勝者家康は、色金山山頂の巨岩『床机石』に腰掛け、優れた戦略を立てたそうです。茶室、展望テラスなど訪れる人の心を温かく包む風情の中、戦国ロマンに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

住所：長久手町大字岩作字色金37番地1
お問合せ：色金山歴史公園茶室管理棟 (0561)61-3131

文化 の家

長久手町文化の家 情報誌

発行／長久手町
編集／長久手町文化の家

お問合せ

長久手町文化の家

〒480-1131
愛知県愛知郡長久手町大字長湫字野田農94番地1
tel.0561-61-3411 fax.0561-61-2510 チケット専用 / tel.0561-61-2888
<http://www.bunka.nagakute.aichi.jp>

- 事業、舞台技術に関すること・・・事業係
- 施設利用、フレンズ、情報誌に関すること・・・管理係

休館日 = 月曜日(祝祭日の場合は翌日)及び年末年始
開館時間 = 午前9時～午後10時

交通アクセス

- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、名鉄バス2番乗り場、長久手郵便局前下車、徒歩8分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、N-バス【Fルート】文化の家下車すぐ
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車徒歩10分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分

